

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践、虐待の防止の徹底において研修会、委員会の議事録の整備と職員への周知を明確にすることが望まれる。	運営会議の中で身体拘束適正化委員会を位置づけ、身体拘束をしないケアの実践、虐待の防止の徹底について全職員に周知徹底できる。	運営会議の中において身体拘束適正化委員会を位置づける。研修会、勉強会、運営会議にて再々身体拘束をしないケア、虐待防止の徹底を図っているが議事録の整備と職員への周知の徹底を図れる系統立てた議事録を整備する。	12ヶ月
2	8	権利擁護に関する制度・理解と活用について資料を活用して事業所内で研修を行ってはどうか。	「権利擁護に関する制度・理解と活用について」の研修会を年間研修計画に位置付け全職員対象に研修を行う。	グループホーム入居者様で現在まで権利擁護事業を利用されている方が居なかったため、数年前に社会福祉協議会職員による研修会を実施したままその後実施できておらず。グループホームのみならず地域での高齢者支援に関わるものとして精通しておく必要がある為、研修会を実施する。	12ヶ月
3	23	入居時に把握した生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等を「入居者個人情報」の特記事項・備考」欄等に記録し、入居中に把握した新しい情報を追記してはどうか。	入居者様の三側面(身体・精神・社会)に関してもう少し踏み込んだ情報把握ができる。	個人情報シートに関して整備して行っているが、日々関わりの中、事細かく把握した情報を担当スタッフのみならず全てのスタッフが気軽に追記できるようにする。	12ヶ月
4	26	介護計画にもとづいた支援の実施状況が明確になる介護記録の工夫と、介護計画を見直す際のモニタリング・再アセスメント、サービス担当者会議を記録に残すことが望まれる。	モニタリング様式を活用し、系統立てた介護計画を作成し、より深く入居者様の生活、状況が見える記録を共有し、チームで寄り添う支援を行う事ができる。	前回から継続中。モニタリング様式により、毎月の家人への状況報告を個別に行っているが、担当者を決め進めているがもう少し多職種等の意見、スタッフ間の意見を取り入れ記録に残す。本人、家族の希望、意向を確認し再モニタリングを行っていく。	12ヶ月
5	33	「看取りについて」の研修も、年間計画に入れ継続的にされてはどうか。	「看取りについて」の研修会を年間研修計画に位置付け全職員対象に研修を行う。	看取りに関しては事例が想定される際にはあらかじめユニットでのカンファレンスを行っており、また運営会議の中でも看取りに関する話し合いを行っている。今後全体的な研修会の中に組み入れていく。	12ヶ月

6	4	<p>運営推進会議の議事録ファイル等を設置等、公開することが望まれる。書面開催でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか・</p>	<p>運営推進会議録を設置し常に関覧できる。意見等を取り入れることができる。</p>	<p>来訪時閲覧できるように以前から備え付けてある。入居者様家人には毎月送付している郵送物と一緒に運営推進会議が開催された際に議事録を郵送する。意見等を取り入れる方策工夫を考え実行していく。</p>	12ヶ月
---	---	---	--	---	------

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。